

昆陽池でカラーリングをつけたユリカモメを魚津で確認

京都府京都市 須川恒

澤祐介さんを通して、早稲田大学の風間健太郎さんから、富山県魚津市で確認された標識ユリカモメ *Larus ridibundus*(または *Chroicocephalus ridibundus*)の問い合わせがやってきた。魚津水族館の木村さん(のちに木村知晴さんとわかった)が、魚津水族館すぐ東側の水田(早月川河口右岸域)で 2020 年 4 月 15 日に観察された夏羽のユリカモメの右足に金属足環、左足に黄色の TM のカラーリングがついていた。撮影された写真(写真 1)も添付されていた。コロナでうっとうしい気分になっていたので、ユリカモメがしっかりと春の渡りを開始しているニュースが得られてさわやかな気持ちになった。



写真1 黄色の TM のカラーリングをつけたユリカモメ(魚津、2020 年 4 月 15 日撮影木村知晴)

風間さんを通して、木村さんともやりとりができ別テイクの写真も送っていただきました。

木村さんは水族館の飼育担当で、野鳥観察も大好き。水族館の近くの水田でしろかき中のトラクターにユリカモメの群れが採食に集まっています(写真2)そのうちの1羽にカラーリングがついているので風間さんに連絡したとのこと。

風間健太郎さんがポスドクで名城大の新妻研にいた時に。風間夫人となった麻未さんはカワウ *Phalacrocorax carbo* の雛を数羽研究のために飼っていると日本鳥学会大会のカワウの自由集会の際に聞いた。麻未さんは卒業後岐阜のアクア・トト水族館に勤めていて、木村さんはアクア・トトによく行ったとのこと。実は研究のために夫妻はカワガラス *Cinclus pallasii* を2羽飼っていて、風間さんが北海道に転勤となったために飼い続けることができなくなり富山の動物園に木村さんのネットワークで届けに行った際に魚津の水族館を訪問したとのこと。そんなわけで鳥つながりがあって、風間さんに問い合わせたとのことだった。



写真2 水田にあつまるユリカモメ(魚津、2020年4月15日撮影木村知晴)

写真2には冬羽から夏羽へ移行するさまざまなステージのユリカモメが撮影されていた。このような移行のステージを和田岳さんが [Strix\(和田,1993\)](#) に書いたように、5段階にでもわけて、成鳥と幼鳥別に記録が得られれば面白そうと思った。

実は1984年のことだが春のユリカモメの渡りの調査をした。5月5日と7日は湖北地方のセンサスをし、5月6日に北陸本線長浜駅から富山を往復して水田中のユリカモメの列車センサスをした。魚津までは行かなかったが、滋賀県湖北地方、金沢平野、富山平野の水田に多くの夏羽や冬羽のユリカモメが確認できた。

さて、黄色のTMは2017年1月7日に兵庫県伊丹市昆陽池公園で手捕りして標識したユリカモメの1羽である。この日はまず9:00に昆陽池に集合してカモ類とユリカモメの手捕りを試みたがうまくいかないの、武庫川に移動して片無双網をセットしたところ、うまくユリカモメ9羽(8羽は成鳥、1羽は幼鳥)を捕獲することができた。帰りに再度昆陽池公園によって手捕りを試みたところ、ユリカモメ成鳥冬羽8羽と、オナガガモ1羽(雌)も捕獲できた。そのうちのユリカモメの1羽が黄色TM(金属足環番号は08A-18267、体重は270g)だった。

この時の手捕りの動画が残っていたので、風間さんらに紹介したら、風間さんから「手捕りの様子は驚きました。私の調査しているウミネコやオオセグロカモメはこうはいきません。」とお返事をいただいた。

動画では中央にいる片岡宣彦さん(薄緑色)が捕まえるだろうと待っていたら、右側の人がまず捕獲し次いで左端の山根みどりさん(青色)が手捕りに成功した(写真3-1~2,)。



写真3-1 ユリカモメ手捕り その1(2017年1月7日須川恒撮影の動画より)



写真3-2 ユリカモメ手捕り その2(2017年1月7日須川恒撮影の動画より)

木村さんからは、「ユリカモメが伊丹市の昆陽池で標識された個体と聞き、よく知っている場所だったので驚くと同時にとても嬉しかったです。伊丹市に祖母の家があるので、小さいころから帰省した時によく昆陽池に遊びに行っていました。」とのこと。

もっと驚いたのは「水族館で働いていますが、鳥が好きなのでよくバードウォッチングをしています。両親は三重県で標識調査をしているので、その影響で足輪のついている鳥を見つけると嬉しくなります。」とのこと。三重県のバンダーで木村姓と言えば「ご両親が三重で標識調査をしている方といえば木村さんならば、確か四日市の木村裕之さんはよく知っていますが…。夫人はたしか木村京子さんかと。」と返事をしたら、知晴さんから「両親は四日市の木村裕之・京子です。世間は狭いですね(笑)。」との返事。

「アルラというバンダー同人誌があり、この確認を春号の原稿にしようと思っています。できればPDFを送りますので読んでください。木村裕之さんはアルラの会員でないので、もし父親ならば入会するように勧めていただくと嬉しいです。」とも書いておいたら、「事の顛末を伝え、アルラを勧めておきます。両親共々、今後ともよろしく願いいたします。」とお返事をいただいた。

文 献

和田岳(1993)京都市賀茂川におけるユリカモメの個体数の季節変化と夏羽への移行.[Strix 12:93-100.](#)

追記:コロナ騒動直前の2020年2月16日に伊丹市立図書館ことば蔵というところで、講演会「都市の湿地と渡り鳥 ユリカモメ・カワウ・カモ類」をすることができた。いままで昆陽池公園には鳥類標識調査ではお世話になっているが、自然愛好者に向けての講演ははじめてだった。その際のビラを紹介する。

**生物多様性
講演会**

都市の湿地（伊丹市の昆陽池、武庫川や京都市の鴨川など）にも多数の渡りをする水鳥がやってきます。これらの鳥たちは、生物多様性、湿地、そして渡りをする鳥類を国境を越えて見守ることの興味深さを教えてください。

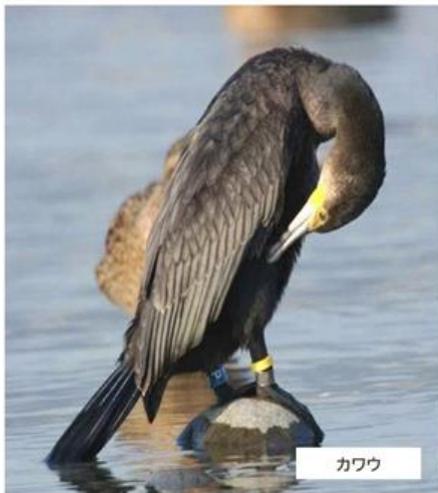
.....

**都市の湿地と渡り鳥
ユリカモメ・カワウ・カモ類**

2020年2月16日(日)14時~16時
伊丹市立図書館「ことば蔵」地下1階 多目的室1
(伊丹市宮ノ前3-7-4)
入場無料・予約不要・定員80名



ユリカモメ



カワウ



カモ類

【講師】須川 恒 (すがわ ひさし) 氏

- 日本鳥学会会員・日本鳥類標識協会会員・龍谷大学里山学研究中心研究員
- 1947年生まれ、大阪育ちで京都在住。京都大学理学部で動物生態学を学び、民間の調査機関や諸研究所の協力研究員として、京都の鴨川や昆陽池公園といった都市の湿地、琵琶湖などに生息する鳥類の生息環境調査、渡りに関する調査に従事するとともに、大学教育にも長年貢献される。著書には『ツバメの街』『里山学のすすめ』『いのちの森』『内湖からのメッセージ』(共著)などがある。



【主催】伊丹市みどり自然課(072-780-3521)

【アクセス】◆ 阪急伊丹駅から：北東へ徒歩約12分。または市バス6番のりばから「大阪国際空港(伊丹空港)」行きで「宮ノ前」下車、徒歩約2分。◆ JR伊丹駅から：北西へ徒歩約12分。または市バス5番のりばから「大阪国際空港(伊丹空港)」行きで「宮ノ前」下車、徒歩約2分。